

福祉みやぎ

CONTENTS (主な内容)

P 2 特集
宮城いきいき学園大崎校の卒業生に聞く、
地域貢献活動について

P 4 Heart&Works (ハート&ワークス)
赤い羽根共同募金運動について

P 6 グッジョブFUKUSHI
有限会社みんなの家

P 8 ちいきをつなぐ
農業×福祉＝ともに耕す未来

P 10 県社協ってこんなことやってます
宮城県介護研修センター

P 11 ひとまちこころ
社会福祉法人仙台つるがや福祉会
小澤 直輝さん

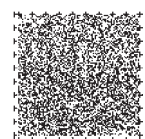
P 12 県社協掲示板



タイトル 樹

作者 特定非営利活動法人 Thyme (タイム)
放課後等デイサービス poppy
田代 芽生さん

作品と向き合い1か月程度かけて作りました。



本会に寄附金をいただきました。温かい真心をありがとうございます。

令和7年7月 7日 仲川喜代美さまより県社協運営事業のために 300,000円
令和7年7月30日 鈴谷悠子さまより県社協運営施設(和風園)のために
令和7年7月31日 株式会社河北新報社さまより公益的な目的の事業のために 239,615円
※金額については、公表についてご了承いただいた場合のみ掲載しています。

宮城県社会福祉協議会 賛助会員募集！

宮城県社会福祉協議会は「誰もが身近な地域
で安心していきいきと暮らせる地域づくり」を
行うため、地域の多様な組織・団体と力を合わ
せて、幅広い活動に取り組んでいます。

企業の皆様、各種団体の皆様、住民の皆様にも、
福祉のまちづくりと、宮城県にお住まいの方々が
抱える困りごとの解決に向けて、お力添えを
いただきたく、会員を募集しています。



法人会費 1口 10,000円
個人会費 1口 5,000円

※「賛助会員」とは、本会の趣旨に賛同し、会員として
ご協力くださる団体及び個人のことで

※お問い合わせ・申し込み先 社会福祉法人 宮城県社会福祉協議会 総務部経営戦略課 TEL 022-779-6963

会費使途

- 「福祉みやぎ」の発行
- 福祉施設等を対象とした事業運営や労務
等に関する研修及び相談支援など
- 社会福祉施設支援事業
- 会員に関する連絡調整等事務的経費 他

会員特典

- 福祉みやぎ(本会広報誌)を毎月送付します。
- 本会で実施する研修の受講料の割引があります。
- 広報誌や、ホームページバナー等への広
告掲載料の割引があります。
- 本会発行の刊行物紙面上での広報が可能です。

宮城県社協のホームページはこちら
<https://www.miyagi-sfk.net>



福祉みやぎアンケート

「福祉みやぎ」に対するご意見、
ご感想をお待ちしています。



回答はこちら。



宮城県福祉人材センター
マスコットキャラクター
「ふくしのほっしー」

ボランティア・福祉活動行事保険をご利用ください

「ボランティア団体で主催する行事」や、「高齢者施設への慰問や福祉まつりなど、福祉的な行事」を安心して行うための制度です。
日帰り行事も宿泊行事もご加入いただけます！

日帰り行事の場合には、内容により保険料が異なります。

A区分 高齢者スポーツ大会、お茶のみ会、各種教室など 30円
B区分 運動会、日帰りキャンプ、サイクリングなど 136円
C区分 サッカー、ラグビー、スキーなど 266円

お問い合わせ

みやぎボランティア総合センター TEL 022-739-9843
(株)オンワードマネジメント TEL 022-762-9915

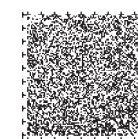
この制度の各補償は宮城県社会福祉協議会が保険会社と締結した保険約款により行います。

日帰り行事は
熱中症・食中毒も
補償されてますます安心！

この印刷物は、植物性油インキを使用し、
環境にやさしい水なし印刷方式を採用しています。



「福祉みやぎ」は宮城県社協のホームページでもご覧になれます。
また、ご意見、ご感想、取り上げてほしいテーマなどをお寄せく
ださい。表紙の作品も募集しています。



宮城いきいき学園大崎校の卒業生に聞く、地域貢献活動について

楽しみながらいきいきと 広がれ！地域に根差した草の根活動



▲東大崎駅・西古川駅（陸羽東線）の清掃活動

宮城いきいき学園は、生きがいと健康づくりを推進するとともに、地域社会の発展に貢献できる人材の育成を目指しており、県内5校（仙南校、大崎校、石巻校、気仙沼・本吉校、登米・栗原校）で学びの場を提供しています。今回は、宮城いきいき学園大崎校の24期卒業生で構成される「大崎校24期会」の皆さんの取組について、会長の佐藤吉正さん、総務部長の鹿野文男さん、そして宮城いきいき学園を運営し

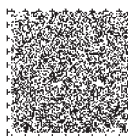


▲左から佐藤さん、鹿野さん



▲いきがい推進センター菊谷所長

ている宮城県社会福祉協議会いきがい推進センターの菊合泰正所長にお話を伺いました。



Q 大崎校24期会について教えてください。

佐藤さん 私たちは平成28年に宮城いきいき学園大崎校に入学し、2年間の学園生活を経て卒業しました。現在の会員数は30人で、平均年齢は概ね75歳です。健康で元氣な仲間たちが集まって、楽しく活動している団体です。

Q どのような活動をしていますか？

佐藤さん 活動の大きな柱はボランティアです。宮城いきいき学園2年生の頃から、陸羽東線の東大崎駅・西古川駅の清掃活動が続いています。コロナ禍以降は、古川西小中学校の児童・生徒さんと合同で行っています。

知的障がい者施設では、入所者や通所者の方々と一緒にペットボトルや空き缶の分別、除草作業を通じた交流なども行っています。そ

のほかにも地域の敬老会や高齢者施設を訪問し、大黒舞や獅子舞、オカリナ演奏などを披露して交流を深めています。

鹿野さん 地域の敬老会などを訪問した際、「ありがとう」と感謝されることはもちろん嬉しいですが、参加された皆さんと交流できるのが何より楽しいですね。

相手にも楽しんでもらうだけでなく、私たち自身も「今日来て良かったな」と思えます。



▲知的障がい者施設でのリサイクル活動の様子

Q 長く活動を続けるために必要なことは何ですか？

佐藤さん 私たちも年齢を重ねていきますので、長く続けるためには「無理をしない」「自分のできる範囲で」ということが大切です。また、新たに企画をするときは特定の人に負担がかからないように、5人程度でグループを組んで持ち回りで担当して



▲大黒舞の様子

いきいき学園の卒業生に出会うことがあります。私の住む地域にもOBがいますし、公民

Q お二人のお話を聞いた感想を教えてください。



▲獅子舞の様子

館の祭りでも実行委員長を務めている仲間もいます。地域に大勢の仲間がいて、とても心強く思います。

菊合所長 皆さんは現役時代、様々な苦労をされてきたと思います

が、ここでは義務感からではなく、「自分のためが、人のためになっていく」という思いで活動されています。その姿勢こそが、地域活動の一番の基本なのだとひしひしと感じます。

年齢を重ねるにつれ、身体的にできることは限られてくるかもしれませんが、その中で自然体でいきいきと活動されている姿を地域に示していただくことが、本当に素晴らしいことだと思います。宮城いきいき学園卒業生の皆さんご自身の健康寿命だけでなく、その活

取材を終えて

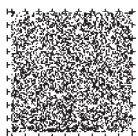
今回の取材を通して、宮城いきいき学園卒業生の皆さんがお互いを尊重し合い、楽しみながら無理なくいきいきと活動されている様子がとても印象的でした。それぞれの生きがいづくりが、世代を超えた交流や地域貢献へと自然につながっています。今後もこの温かい草の根活動の輪が、地域全体にさらに広がっていくことを期待しています。

問い合わせ先

宮城県社会福祉協議会

いきがい推進センター

連絡先 0222（225）8477





▲被災地で活動する大学生ボランティア（石川県穴水町）

1. 義援金	お寄せいただいた義援金は、被災地の自治体及び関係機関で構成される義援金配分委員会によって配分が決定され、被災された皆さまの生活再建のために届けられます。
2. 支援金	災害時には、多くのボランティアやNPOが被災地に駆けつけ、被災者支援や復興支援活動が行われます。こうした支援活動を支える新たな資金支援の仕組みとして、中央共同募金会では「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」（通称：ボラサポ）を創設し、寄付募集や助成を行ってきました。義援金とは別の「支援金」として、災害発生時はボラサポによる支援を行っています。
3. 災害等準備金	社会福祉法第118条に基づき、毎年、共同募金の一部を「災害等準備金」として積み立てています。災害が発生した際に、被災者とボランティアをつなぐ災害ボランティアセンターの立ち上げ経費や運営費等に役立てられています。

SDGs（持続可能な開発目標）は、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に総合的に取り組むことを目指しています。

赤い羽根共同募金は、地域社会が直面する社会課題や、公的制度等では十分に対応できないさまざまな生活課題を解決する草の根的な福祉活動への助成を通じて、SDGsの目指す社会実現に向けた取組を進めています。

企業・団体の皆さまがSDGsと連動した取組をはじめめるにあたり、赤い羽根共同募金へご支援いただくこともSDGsの実現につながります。



▲被災地仮設住宅でのサロン活動（石川県）

共同募金会では、ご自身の財産や、相続された財産を、ご自身の愛着ある地域の福祉のために活用してほしいというご相談が増えていきます。わが国では、孤独死や自殺の増加、不登校やひきこもりの問題、経済的に困窮状態にある家庭の問題など、さまざまな生活課題が顕在化し、社会問題となっています。共同募金会では、皆さまからお預かりした貴重な財産を、身近な地域のさまざまな福祉課題の解決につなげていくことが可能です。

【宮城県共同募金会が連携できる主なSDGs目標】

1 貧困をなくそう 2 飢餓をゼロに 3 健康と長寿をすべての人に 4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を実現しよう 10 人や国の不平等をなくそう 11 住み続けられるまちづくりを 16 平和と正義をすべての人に 17 パートナリシップで目標を達成しよう

宮城県共同募金会は、地域に暮らす人びとが共にたすけあい、安心して生活が送れるような地域社会づくりに寄与していきたいと考えています。今年も皆さまの赤い羽根共同募金運動への積極的なご参加を心よりお願い申し上げます。

（宮城県共同募金会寄稿）



▲令和7年度運動ポスター

「おたがいさま」と「おかげさま」困った時は「おたがいさま」が「おかげさま」となり、恩を恩返しする循環が生まれてきます。まさに、共同募金は、「おたがいさま」と「おかげさま」を実践している運動です。



▲遺贈・相続寄付パンフレット

Heart & Works

赤い羽根共同募金運動 共通助成テーマ



つながりをたやさない社会づくり～あなたは一人じゃない



▲楽天野球団との協同事業



社会福祉法人 宮城県共同募金会
皆さまの温かい善意に支えられ「赤い羽根共同募金運動」は、今年も10月1日から全国一斉にスタートします！

令和6年度は、宮城県内で約3億8千8百万円のあたたかい募金が寄せられています。皆さまか



▲第1回共同募金運動

じぶんの町を良くするしくみ
共同募金運動は、戦後間もない昭和22年に「国民たすけあい運動」として始まりました。当初は戦後復興の一助として、被災した福祉施設を中心に支援が行われ、その後、法律（現在の「社会福祉法」）に基づき、地域福祉の推進のために活用されてきました。地域社会が変化する中、共同募金は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、さまざまな地域福祉の課題解決に取り組む民間団体を支援しています。

「災害時の支援」
いつ、どこで起こるかわからない大規模災害時、共同募金会は、被災者の生活や支援者の活動を支えるための「3つの募金」を行います。このような支援事業を行えるのは、全国運動である共同募金の大きな特徴です。

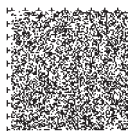


▲DVなどの被害者一時避難場所の支援



▲小学校と連携した子ども食堂への支援

らの募金は「じぶんの町をはじめ、私たちの宮城県」を良くするために使われます。



「かふえ やまぼうし」では、就労継続支援B型「みんなの家のぞみ」の利用者も働いており、丁寧に注文を取り、配膳、下膳する姿がありました。この日働いていたリエさんのおすすめメニューは牛カルビ丼とレモンティー。「お客さんが増えて、多くの注文が入る時が大変です」と教えてくれました。ゆったりとしたBGMに木のぬくもりを感じられる店内はとても素敵な空間で、お昼時にはお友達とランチに来られた方々にぎわっていました。常連の男性もカウンターでコーヒーを飲み、この空間を楽しんでいるようでした。



▲「かふえ やまぼうし」で働くリエさんとお気に入りのカウンター

『小さな街』の大きな存在

石塚さん 保育所「みんなの家あゆむ」では、元々は職員のお子さんは地域のお子さんにもご利用いただいています。昔の田舎には、家

たいという思いから暖炉も設置しました。「かふえ やまぼうし」も自分で設計しました。特にカウンターはお気に入りです。ひと月に2回ほど、行政区単位のミニデイサービスとして、「かふえ やまぼうし」でのランチやお茶飲みと施設見学を実施しており、地域の方々に施設について知ってもらえるきっかけにもなっています。そのほか、利用者さんのご家族が孤立しないことや、介護の理解を深めてもらうことを目的とし、地域交流も行ってきました。地域と防災協定を結び、震災時もお互いに声を掛け合い、支えあうことができます。と思います。

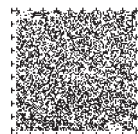
『小さな街』での夢

猪又さん まだまだやりたいことは沢山ありますが、「ここで働けて良かった」と職員が感じ、「明日の楽しみ」を利用者さんに感じてもらえるような、両者が輝ける場所づくりを職員と共にやっていきたいです。

石塚さん 現在、事務所と現場の両方の仕事をする中で、働く職員の研修制度を充実させたいと考えています。介護が未経験の職員もいれば、経験者もいます。実務的な研修制度ももちろんですが、「みんなの家」のすべての職員が、代表取締役の思いでもある「ワクワクしながら仕事を



▲毎年8月に開催する夏祭りの様子。地域の方々も参加し、今年で20回目を迎えます。



グッジョブ FUKUSHI

このコーナーでは福祉の仕事や団体などについて紹介します！

今回は、登米市中田町にある有限会社みんなの家の代表取締役の猪又実さんと総務部の石塚洋介さんにお話を伺いました。



▲代表取締役の猪又さん(左)と、石塚さん(右)

有限会社みんなの家は、小規模多機能介護施設^{※1}と複合型障害者福祉施設ふぁみりえを併設しています。小規模多機能介護施設にはデイサービス、認知症高齢者グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅があります。ふぁみりえは障害福祉サービスの就労継続支援B型「みんなの家のぞみ」、共同生活援助「みんなの家なごみ」と、企業主導型保育所「みんなの家あゆむ」、「かふえ やまぼうし」の4つの施設が一体となった複合型障害者福祉施設です。

そこは幼児、障害者、高齢者、働く職員がみな笑顔で暮らせる「小さな街」のようでした。

※1 小規模多機能介護施設とは、有限会社みんなの家独自のもので、介護保険制度の地域密着型サービスの一つである「小規模多機能型居宅介護」とは異なります。

『小さな街』のはじまり

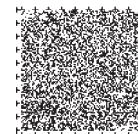
猪又さん 親の介護を考えた時に、閉鎖的で山の中にあるような施設で過ごすのではなく、身近な場所で、趣味を活かして楽しく暮らしてもらいたいと思い、たが、当時はそのような施設はありませんでした。それなら自分で作ろうと思い、同級生や、同じ思いを持った人たちにも出資してもらいました。元々は建



『小さな街』の素敵な空間

猪又さん 施設の設計には、木材が見えるようにしたところと、天井を高くして天窓を取り付けたところに特にこだわりました。また、高齢者の施設と障害者の施設の色合いは全く違うものになっています。照明にもこだわり、火の揺らぎ効果を感じてもらい

設業を営んでおりましたので、自分で建物の設計ができたのも大きかったですね。自宅に近い環境をどうすれば作ることができるのか考えました。木造平屋でトイレと洗面台のある個室にしたいとか、人が集まってワイワイ楽しく過ごせる場所も必要だとか。登米は自分が生まれ育った場所であり、同級生の親やその世代の方に完成した施設を利用してもらえたことはとても嬉しかったです。



ちいきをつなぐ

農業×福祉＝ともに耕す未来 ～酪農を通じてモ～っとつながる地域交流の輪～

一般社団法人もりの工房（以下「もりの工房」という。）は、宮城県加美郡加美町で酪農を通じた農福連携の取組を進めるため、2020年に設立された団体です。障害者の就労支援を中心に、食育活動や牧場見学の受入れ、搾乳体験やワークショップの開催等、様々な活動を地域の中で展開しています。

今回は、障害の有無に関わらず誰もが協働・共生できる地域社会を目指している、もりの工房代表理事の一條重人さんと、一緒に働く小松紀仁さん、鎌田幸さんにお話を伺いました。

立ち上げのきっかけや目的を教えてください。

牧場を運営している中で、後継者や人手不足が酪農業界全体の課題と感じていました。こうした課題を解決するために多様性を尊重した酪農の在り方を模索するようになり、福祉分野との連携を考えました。障害の有無に関わらず牧場に来てほしいという思いから、2019年に町内の福祉施設の協力を得て、施設外就労の受入れ先となり、障害のある方と共に牧場での作業をスタートさせました。そして、この活動が多様な人が酪



▲牧場の様子

農に触れることのきっかけとなり、食育活動の広がりや交流人口の増加、持続可能な酪農にもつながるものと考え、2020年に任意団体としてもりの工房を設立し、2022年に法人格を取得しました。

どんな取組や地域交流活動をしていますか。

多様性の在り方に関する理解を深め、障害者が協働・共生できる地域社会を目指し、酪農全般はもちろん、地域で食育活動や里山保全活動、ワークショップ等を開催しています。

障害がありながらも生き生きと働く小松さんが、ファシリテーターをつとめる牧場での食育活動では、障害のある子どもたちを対象に、搾乳体験や紙芝居を用いて牛の体の仕組みを解説する活動を行っています。そのほか、加美町子どもの心のケアハウスや宮城県立古川支援学校の生徒と一緒に、牧場から出る廃材を活用した小物の制作を行うワークショップ等も開催しています。

こうした体験やイベントを開催することで、交流人口を増やし、障害についての理解を深める機会の増加にもつながっていると考えています。



▲生き生きと活動する小松さん

農福連携に対する想いを教えてください。

過疎のまちにおいて、障害に対するネガティブなイメージがフローズアップされがちで、障害者の可能性や能力の部分が見えづらく、障害者が働くことに対する理解が十分ではないと感じています。

私は、障害者の持つ能力を十分に発揮してもらい、加美町の基幹産業である農業を障害者の活躍の

場として選んでもらえるよう努めてきました。

人手不足に悩む農業と障害者雇用の架け橋となるような活動に取り組むことで、障害の有無に関わらず、誰もが多様性を認め合いながら、地域の中で活躍できる人が増えればいいと思います。

一緒に働く従業員との関わりについて教えてください。

現在、もりの工房では障害のある二人と一緒に働いています。二人には、自分のペースで無理なく作業してもらい、成功体験を積み重ね、働くことや地域との関わりの中で喜びを感じてほしいです。

実際に、一緒に働く小松さんから「紙芝居の読み聞かせをやりたい」という思いを聞き、酪農を通じて食や仕事、いのちの学びを支援することを目的に活動してもらうようになりました。今では、学校や障害者施設等での出前授業やイベントの場で、紙芝居を用いて牛や酪農の仕事について、読み聞かせを行っています。



▲トラクターを洗車する小松さん



▲牛舎の清掃・搾乳機の洗浄をする鎌田さん



今後の展望についてお聞かせください。

これまでに、仙台市をはじめ県内から、障害者の職場見学や体験実習を受け入れてきました。しかし、障害者の多くは、移動手段が乏しく公共の交通機関が少ない加美町への通勤がネックとなり、就労には至っていないのが実情です。そのため、加美町で入居率の低い町営住宅をグループホームとして活用し、住まいと仕事の両輪で支援を行い、地域の中で協働できる機会を増やしたいと考えています。

現在、企業との連携により、障害の有無や世代を超えて、誰もが農業体験を通じ交流できる農園を設立し、多世代・多属性の交流を育む農業体験プロジェクト「積水ハウス農園くみんの畑」を実施しています。日頃の生活に農業を取り入れることで、心身ともにリフレッシュを促し、将来的には農業の生産現場での雇用や就労へとつながる体験などを提供していきます。

小松紀仁さんへのインタビュー

Q. 牧場でのお仕事はいかがですか。

A. 夏は暑くて大変だけど、楽しいです。大きな機械や電動工具を使って色々な作業ができるので楽しいです。

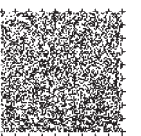
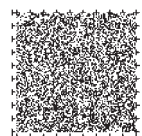
Q. 紙芝居での読み聞かせはいかがですか。

A. 最初は緊張していたけど、もう慣れました。役に合わせて声を低くしたり高くしたり変えています。それを聞いて子どもたちが喜んでくれるのが嬉しいです！

鎌田幸さんへのインタビュー

Q. 牧場でのお仕事はいかがですか。

A. 自分のペースでゆっくりと仕事に取り組めるので嬉しいです。



ひとまち こころ

このコーナーでは福祉の職場で働く人へインタビューを行い、仕事の魅力などを紹介します。

今回は、社会福祉法人仙台つるがや福祉会「ワークつるがや」で活躍する職員の方に、福祉の仕事の魅力についてお話を伺いました。

日頃の業務内容を教えてください。

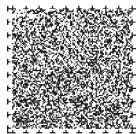
基本的には利用者さんと一緒に作業や行事に取り組みます。楽しいおしゃべりもたくさんします。主任として、各工房の作業の進捗を確認したり、利用者さんや職員に困っている様子はないかを確認し、必要に応じて指示を出したりします。また、受託作業に関する企業とのやりとりや利用者さんたちが楽しめるような行事の企画・運営なども行っています。

入職した理由やきっかけを教えてください。

以前は別の仕事をしていたのですが、友人から声を掛けられたのがきっかけでワークつるがやに1日体験入職をしました。体験入職では、利用者さんからたくさん話しかけてくださり、本当に楽しかったのを今でも鮮明に覚えています。福祉の仕事の知識や経験はほとんどありませんでしたが、利用者さんと職員の雰囲気良く「楽しそう!」と感じたことが入職の大きな決め手となりました。

福祉の仕事には、どのようなやりがいや魅力がありますか。

福祉の仕事のやりがいや魅力は、利用者さんとの日々の関わりにあると感じています。受託作業の納品を終えたときに、利用者さんが達成感を味わっている瞬間に立ち会えると、大きなやりがいを感じます。また、日々を一緒に過ごしていく中で、昨日までできなかったことが少しずつできるようになり、その喜びを共に分かち合える瞬間には「この仕事をやっていてよかった」と思います。



PROFILE

主任・サービス管理責任者

おざわ 直輝 さん

入職日
平成24年4月1日

おすすめ
製麺作業（麺工房）で作る「うどん」が大好きです!

日々の業務の中で大変なことや難しさを感じることはありませんか。

毎日、約80人の利用者さんが通所しています。利用者さんの障害特性や日々の状態によっても配慮することが異なります。利用者さんとのやりとりの中で思うようにいかないこともあります。長期的な視点で利用者さんの変化を捉え、日々「どのように楽しく過ごしていただけるか」と考えています。

福祉の仕事を目指す人へのメッセージをお願いします。

福祉の仕事は人を思いやる気持ちや、これまでの人生経験をそのまま活かせる機会がたくさんあります。人と人との関わりの仕事なので、その時、その人にあった言葉や関わりをすることの楽しさ、難しさがある仕事です。その人に喜んでもらえたり、一緒に解決できた時はとても嬉しい瞬間です。誰かの頼れる人の一人になれる仕事だと思います。日々の関わりに活かすための学習や情報収集も楽しみの一つです。福祉の仕事について興味はあるけれど不安や迷いを感じている方がいたら、ぜひ一歩踏み出してほしいと思います。



▲ウエス回収量の計算中



▲ウエス袋のシール貼り

宮城県介護研修センター

研修会の開催

宮城県介護研修センターは、宮城県から指定管理者の指定を受けて、宮城県社会福祉協議会が運営しています。当センターは、高齢社会の到来に対して、地域住民へ介護知識・技術と福祉用具の普及を図ることを目的として平成6年に設置されました。令和6年に大崎市鹿島台から大和町の宮城県船形の郷内に移転しました。

福祉用具などの相談

福祉用具をはじめ介護や福祉制度の利用、住宅改修に関する相談、情報提供を行っています。福祉用具は使用する方の身体状況と環境との適合が重要となるため、理学療法士等の訪問支援による相談を積極的に行っています。高齢者だけでなく、障害児・者、難病等の方に対して、車

福祉用具展示

展示品は約600点あり、見学することができます。使用する方の障害に合わせて活用する福祉用具（車椅子・電動車椅子・移乗用リフト・コミュニケーション機器等）を多く展示しているのが特徴です。

問い合わせ先

宮城県介護研修センター

● 住所

宮城県黒川郡大和町吉田字上童子沢21
宮城県船形の郷管理棟内

● 連絡先

022 (341) 1102

ホームページ

<https://fukushi.miyagi-sfk.net/kkc/>

Google マップ



ホームページ



開館日

● 月曜日から金曜日
(土日祝日、年末年始休館)
● 午前9時から午後5時まで
椅子（姿勢保持・電動操作）や移乗方法の検討、住宅改修等を通じた移動支援、意思伝達装置等のコミュニケーションや自立支援機器の導入・調整・継続使用に関する相談に対応しています。



▲介護講座の様子



▲機器展示室

